

# 2023年大発会

1月4日、2023年のスタートを切る大発会を行いました。  
福岡市内の会員証券会社の方々をはじめ、市場関係者約40名の皆様にご出席をいただきました。長理事長が年頭の挨拶を行い、引き続き理事長の音頭により、証券市場が益々活況を呈しますよう祈念して、吉例の「博多手一本」を入れました。



**理事長挨拶**  
**(2023 年大発会)**

大発会に朝早くからお集まりいただき、ありがとうございます。  
まずは、皆様、新年明けましておめでとうございます。  
2023 年、令和 5 年の年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

大納会でも申し上げましたように、昨年は世界各国がインフレに直面し、金融引締め策が行われる中、わが国においては、為替レートが急激に変動し、株価は一進一退を繰り返しながらも、やや軟調に推移した 1 年でした。

本年は、干支（えと）でいえば、「癸卯」（みずのと・う）にあたっております。

癸（みずのと）は、干支（かんし）の最後の 10 番目ですが、種子が十分に大きくなった状態であり、次の新しい循環の始まりに備えた状態ともいわれます。

また、卯（う）の方は、植物では草木が一面を覆っている状態を指すことから、動物では豊穰や子孫繁栄の象徴であるウサギがあてられています。

1 つ前のうさぎ年、2011 年は、東日本大震災に見舞われるというわが国にとって試練の年であり、株式相場の方も低調でした（日経平均▲17.3%）。

しかしながら、2 つ前のウサギ年の 1999 年は、この年に東証マザーズ、翌 2000 年に福証 Q ボードが開設されるなど、IT はじめ新興企業が台頭した時期であり、

相場も活況でした。

今年は、2 つ前のうさぎ年、1999 年と同じように、相場格言通り「卯（う）跳ねる」となることを期待したいと思います。

今年 1 年の世界経済については、インフレの鎮静化が引き続き大きな政策課題となる中、主要国の金融引締めがいつまで続くのか、实体经济に対するマイナス圧力がどの程度大きいのか、が焦点となっています。

また、昨年は FRB や ECB など欧米中央銀行の動向を株式市場は固唾を呑んで見守ってきましたが、今年は日銀の金融政策にも目が離せない状況となりそうです。

もっとも、わが国は欧米諸国より物価上昇率は落ち着いていますし、予断を許さない状況ではありますが、コロナ禍からの社会経済活動再開が、

昨年引き続き、加速することも期待されます。

九州に目を向けますと、熊本では、台湾 TSMC の合併会社の工場稼働に向けて、多くの半導体関連企業が進出を決めています。

加えて、京セラが、昨年の鹿児島川内新工場棟に続き、長崎県諫早でも新工場建設の方針を発表するなど、九州一円で半導体関連の投資が拡大してきています。

福岡の方でも、地下鉄七隈線延伸、福岡大名ガーデンシティのオープンがすぐ目の前に迫っております。

加えて、福ビル街区の再開発、博多コネクテッドの開発が進行しているほか、パルコや中央郵便局・ショッパーズの建替えも発表されるなど、福岡の街の風景が大きく変化しようとしています。

このように、福岡・九州におきましては、2020 年代半ばから後半に向けて、新しい動きが胎動してきています。

福岡証券取引所におきましても、昨年より、その機能を一層強化していくための新たな取組みの検討を開始しました。

今年1年につきましては、公正で安心して取引していただける取引所であり続け、新規株式上場を通じた地域企業の支援も着実にやっていくと同時に、新たな取組みの実現に向けて一歩でも二歩でも前進する年となればと考えております。

この1年間、会員証券会社の皆さま、理事・監事の皆さまのお知恵をお借りし、ご協力をお願いする機会が、昨年以上に増えるのではないかと考えています。

役職員一同、皆さま方との連携・協力を一層強固なものにしながら、地域になくてはならない取引所として、九州を中心とした地域経済発展に力を尽くしていくとともに、国際金融機能を兼ね備えた都市に相応しい取引所を目指し、努力して参る所存です。

どうか今年も福証の取組みに対し、引き続きのご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではありますが、私からの新年のご挨拶とさせていただきます。